

(仮称) ちよだエコセンターの基本的な考え方について

1 背景

<区としてのマクロ的環境問題への対応>

○地球温暖化対策の推進

- ・地球温暖化対策が待ったなしの状況を迎えている中でCO2 排出量の更なる削減が世界の潮流となっている。
- ・千代田区ではCO2 排出量の約3/4 が業務部門であり、特に区内に多く存在する中小ビルのCO2 削減が課題である。
- ・区は地球温暖化対策地域推進計画 2015 に掲げたCO2 削減の対策目標を着実に実行しなければならない。

○深刻な廃棄物処理問題の対策の推進

- ・廃棄物は環境問題の原点であり、大量廃棄型の社会システムから持続可能な資源循環型社会への転換が求められている。
- ・清掃工場を持たない千代田区は、より一層のごみ減量と資源回収を推進しなければならない。

○生物多様性の推進

- ・地球上の生きものや生態系は、深刻な危機に瀕しており、生物多様性の問題が喫緊の課題となっている。
- ・皇居を中心とする豊かな生きもののネットワークを周辺地域に広げることが千代田区としての役割であり、生物多様性について理解と協力を深めていく意識の醸成が求められている。

<新たな環境を取り巻く施策への対応>

○新築建築物の「ZEB化」の推進

- ・国の「第5次エネルギー基本計画」では、2020年までに国を含めた新築公共建築物等でZEBを実現し、2030年までに新築建築物の平均でZEBの実現を目指すことが掲げられている。そのため、新築公共施設ではZEBに取り組む必要があり、将来的には民間の建築物もZEBを目指すこととされている。

○環境から「SDGs」への拡張

- ・国の「SDGsアクションプラン2018」では、都市・地域において“環境”を捉える際、エネルギーや低炭素といった観点に留まらない“持続可能”という広い視野を持つことが求められている。
- ・(仮称) ちよだエコセンターは、千代田区がSDGsに取り組むことを具体的に示すことができる施策として位置づけることが可能である。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS
世界を変えるための17の目標



2 環境拠点に関わる区の現状・課題

- 千代田区は、エネルギーの大消費地である一方、そのエネルギー供給を地方に依存している現状などから、地方との連携事業の推進（カーボン・オフセット等）やエネルギーの消費を減らす建築物環境計画書制度（非住宅35%削減目標）、グリーンストック作戦の推進などの取組の強化が必要である。
- 分散している環境に関する拠点（リサイクルセンター、出張所等公共施設、区役所等）への対策や企業・大学等が多く存在し人的資源が豊富なことを生かした環境に関わる活動推進などが必要である。
- 環境情報の提供や環境学習イベント、緑化活動や生物多様性等の活動の更なる強化を図るとともに、省エネ・省資源に関わる補助・助成制度の活用促進、地球温暖化対策や省エネ窓口の強化などが必要である。

3 環境拠点の基本的な考え方

千代田区に住み、働き、学ぶすべての人々が、環境に関する様々な取組みに関心を持ち、自らのこととして意識を高め、行動に移してもらう場とするため、環境に関わる活動拠点を効果的に集約・強化する。

また、ZEBのモデル施設として低炭素化を促進することやSDGsに関わる活動を牽引することを、見える形で内外にアピールする拠点を形成する。